

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 1 1

《トビイロウンカ（秋ウンカ）による坪枯れ発生》

本年は、トビイロウンカの飛来・発生量が非常に多く、8月24日頃から県内各地において「坪枯れ」が確認され始めました。

福岡県農林業総合試験場（福岡県病害虫防除所）から8月7日に警報が発表されています。今後も、ほ場内で急激に増加し昨年以上の「坪枯れ」多発も懸念されますので、ほ場内の確認を行い、発生が多い場合は早急に防除してください。

多発ほ場における 100 株当たりトビイロウンカ発生状況（8月5半旬）

	幼虫			合計
	老齢	中齢	若齢	
A市	248	1,388	4,624	6,260
B市	20	336	796	1,152
C市	64	128	316	508

※ 多発ほ場は、要防除水準を大きく超えており、早急な防除が必要。

8月下旬は、若齢幼虫が多く、防除適期となっている。

〈防除上、注意すべき事項〉

【要防除水準】 トビイロウンカ：幼虫の合計数（100株当たり）

- ・ 飛来後第2世代（8月下旬～9月上旬）： 100頭以上
- ・ 飛来後第3世代（9月中旬～下旬）： 1,000頭以上

- ・ 本年は、気温が高いため、早期及び早植え水稻では、刈り遅れがないように適期収穫に努めましょう。坪枯れが発生し始めたら、可能な限り収穫を早め、減収の拡大を防ぎましょう。
- ・ 基幹防除実施後も発生状況を確認し、多発の場合は、補正防除を行いましょう。
- ・ 幼虫の時期（発生パターン図参照）に防除を行いましょう。
- ・ 効果の高い箱施薬剤（ゼクサロン剤）を使用しているにもかかわらず多発している事例がありますので、ほ場の確認は必ず実施してください。
- ・ 薬剤散布時は、稲体への薬剤付着量向上のため、ほ場に水を張りましょう。
- ・ トビイロウンカは、感受性が低下している薬剤もあるため、薬剤の選定はJ Aなどと相談して決めましょう。アプロード剤は残効が長い特徴がありますが、近年、効果の低下も見られますので、必ず他のウンカ用薬剤と混用して使用しましょう。
- ・ 薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を実施しましょう。

